

# 雪で遊ぼう、冬を楽しもう

冬將軍がどつかりと腰を落ちつけるこの時期、家の中に閉じこもってばかりいませんか？ 一年の三分の一近くを雪とともに暮らす北国・札幌なのです。上手に雪と付き合ったらもつと楽しく毎日を過ごさせるはず。今回、紹介するのは雪を利用した冬の屋外のレクリエーションです。

暖かい家から飛び出して、北国の冬を楽しんでみましょう。



▲昨年1月、屯田西公園で行われた第6回北区長杯スノーホッケー大会

## 札幌生まれの

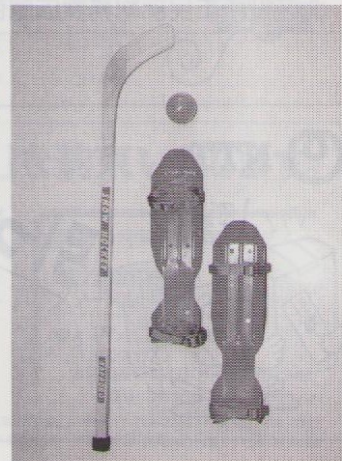
## スノーホッケー

「そこ、シュート!」「やったあ!」  
スティックを持って、雪の上のボールを追う子供たち。放課後の校庭に歓声が響きます。

小学生に人気を誇る冬のスポーツ、スノーホッケー。昭和五十八年に誕生したこのスポーツは、その前年、「快適な冬の過ごし方」が話題になった北方都市会議での討議をヒントに、札幌市が一年がかりで開発したものです。ルールは簡単。「レッツ」というミニスキーを改良したものをはき、スティックで相手ゴールにボールを入れ、得点を競います。サッカーとアイスホッケーの中間のようなこのスポーツは、一チーム七人構成で試合時間は三十分。その運動量はかなりのもので、試合後はみんな汗びっしょりになります。

区長杯や市長杯などの大会は、たくさんの小学生が集まって大にぎわい。その中でも北区のチームは表彰台の常連で、寒さに負けず元気にボールを追

## ▶スノーホッケーの用具



う北区っ子の頑張りが光っています。幌北地区でスノーホッケークラブを率い、自らもとりこになっている長壁ながかべ常雄さんに話を聞きました。「楽しみながらできるので、体力づくりにはもってこい。子供たちはばかりか、渋々ついてきた大人も夢中になるんですよ。」

幌北地区では昨年しんねんから、スノーホッケーが地区の冬祭りの目玉行事になりました。「スノーホッケーを通して、地域のふれあいの輪が広がっていくのがうれしい」と長壁さん。子供たちに冬の健全な遊びの場を与えてやりたいと始めたスノーホッケーが、まちづくりにつながっているようです。

滑ったり、転んだり。雪とじかに触れ合うスノーホッケー。これからますます広がってほしい札幌ブランドです。

■お問い合わせ 札幌市教育委員会  
体育課振興係(24) 4603へ。